

**教育課程部会（第100回（第8期第10回）（平成28年11月21日）  
議事概要（未定稿）**

- 今回、アクティブ・ラーニングの視点ということが出されて、基本的な趣旨は、視点という形で踏まえて、是非考慮してくださいということ。ただし、具体的な個々の手法について、あるいはどこに入れるかという入れどころ、それについてはかなり多様なものがあるというところ、それについてはかなり多様なものが出ていいということだと思う。この1年、実際非常に多様なものが出ている。ただ、捉え方が非常に狭いもの、偏っていると思われるものもある。二つの点が問題だと思う。一つは、探究的な学習のみがアクティブ・ラーニングであるというような捉え方。確かに探究的な学習を促したいし、探究的な学習が一種の典型的なアクティブ・ラーニングであることはもちろんだと思うが、それだけではない。例えば、「審議のまとめ」47ページ「各教科等の特質に応じた学習活動を改善する視点」のところにアクティブ・ラーニングについて記載がある。総合的な学習の時間だけではなく、各教科の中で充実させるものであるということ、基礎・基本の習得に問題があるときには、主体性を引き出すような工夫をしたりして、アクティブ・ラーニングの視点は生かしてほしいということが書かれているように思う。特に最後の点はもっと明確になっていい。やはり教科の多くの時間を占めているのは基礎・基本の習得なので、ここでアクティブ・ラーニングの視点を生かさないと、なかなか深い理解や資質・能力の育成、学習意欲の向上につながっていかないのではないだろうか。また、探究的な学習だけがアクティブ・ラーニングだと捉えてしまうと、ふだんの授業は変えなくていいとも取られてしまう。ふだんの基礎・基本の習得を目指した教科の学習にもアクティブ・ラーニングの視点を生かして欲しいということを、もう少しはっきり書かれてもいいと思う。
- 習得の学習にもアクティブ・ラーニングの視点を生かす際、偏りにも気を付けなければならない。教師はほとんど関わらずに、「課題を与えたら、あとは子供たちに任せて主体的・対話的に・・・」ということでは、深い学びにつながらない。「審議のまとめ」には、教師の役割も明確に書き込んであるが、そこが読み飛ばされてしまって、教科におけるアクティブ・ラーニングというと、むしろ教師ができるだけ役割を控えた方がいいのだと受け取られてしまうことも見受けられる。この辺りのことを、こちらの趣旨が分かるような記述にしていただけたらと思う。
- 「答申に向けて記述の充実を図る事項」について、「その他」のところの一つ加えていただければと思うが、「審議のまとめ」の中のそれぞれの用語について、例えば文言についての解説を最終ページにまとめて載せるといったように、読む方が共通の理解の下で読めるような工夫をしていただければ有り難い。

- 教科間でアクティブ・ラーニングをどうやって取り入れるかというのは一つ大きな観点であるが、その中で特に、ICTをどうやって取り入れていくかというのは一つ大きな観点かと思う。この点について、「教科横断的な視点に基づく資質・能力の育成」の観点を含めて少し御検討いただければと思う。
- 片仮名英語、横文字が多く、かなり専門的な用語もたくさん入っており、それが注にも細かく書かれているが、一般の方々に分かりやすく周知するために、もう少し理解しやすいような表現等を考える、あるいはダイジェスト版みたいなものでそれを周知することは必要ではないか。社会に開かれた教育課程ということを大きく前に出している新しい学習指導要領を考えると、その辺も検討いただければと思う。
- 「教科横断的な視点に基づく資質・能力の育成」に関して、安全教育、特に防災教育に関しては学校安全部会でもしっかり議論されている内容でもあるし、これだけ頻繁に震災が起こる状況になると、もっとその意識を高めていかないといけないと思っている。
- 横文字が多いというのは確かに気になる。外の人から見ても、きちんと分かるように工夫すべきという点は賛成。
- 主権者教育において、選挙や政治というものは、あくまで意思表示の一つであり、それに至るまでの流れをどう作るかが大事。つまり、主権者意識を育むということは、公共の精神を養うことであり、教育基本法に明示されている、社会の形成に主体的に参画し、その発展に寄与する態度を養うのが主権者教育の肝だと思っている。そういう意味では、防災教育、海洋教育、消費者教育、金融経済教育など、社会に関わるいろんなことを学ぶというのは、全て主権者教育の中に入ると思う。そういう主権者教育の位置付けをしっかりとした上で、それぞれ具体的にどうするのか、学校で何をやるのか、家庭で何をやるのかということについて、仕分けをしていく。今回、高校に公共という科目が入るが、小中の頃から、どういう流れで高校につなげていくのかということも考えていく必要があると思う。家庭でも、例えば、子供を連れての投票ができるようになってきている。小さい頃から選挙の現場を見させて、原体験を子供たちに植え付けることが、将来の質の高い有権者につながる。こういったことを生かすということ。保護者の人たちに、是非これを活用してくださいというふうに踏み込んでいくことが必要。
- NIEも大事。家庭で、社会事象について話し合うという状況をどう作っていくかということも検討する必要がある。学校と家庭のコラボレーションが大事で、例えば、週末に学校の先生が、「こういう問題について、お父さんやお母さんやおじいちゃん、おばあちゃんと話をしてみて、週明けに発表してください」と投げ掛けてコラボレーションしていくようなやり方もできるかもしれない。そういったことがクリアに分かるように構成していただきたい。

- 団体のヒアリングの中で、地域の方、保護者の方にとって教育課程が非常に分かりにくいものになっているという御意見があって、私はそのところについて大変着目させていただいた。文言の加筆、修正については様々あるかと思うが、ポイントとしてはやはり、保護者の方、地域の方が、学校の教育課程というものをどういうふうに捉えて、どういうふうに認識するかということ自体が、分かっていないように思う。そのあたりのところをどういうふうに手当てしていくのかという視点が、答申に向けては大切になってくるかと思う。論点整理の段階では、コンセプトの生成と提起、そして、「審議のまとめ」が、教科等を加えだということだと思うが、次のステップとしての答申は、広い意味における条件整備の点ではないかと思う。保護者の方、地域の方に学校の教育課程を御理解いただくということを、広い意味での条件整備の在り方という形で捉えていくと、この中にどういう観点でそのことを加えていったらいいのかが分かるはず。伝えるツールを工夫するというのは非常に大切なことだが、それに特化することなく、どう教育課程を分かってもらえるかということを考える必要がある。
  
- 教科横断的な視点に基づく資質・能力の育成に関して、更に追加し強調する項目として「海洋教育」というのが出ており、パブリック・コメントの概要を拝見すると、海洋教育の具体的なポイントとしては二つあって、「多数の島から構成される四面を海に囲まれている海洋国家である我が国の教育においては、海運など海事関連産業が国民生活、日本経済を根底で支えている重要な役割を担っているということが正確に理解されるようにする必要がある」ということが一つ。これは教科横断的な資質・能力というよりは、産業、国土、経済に関するコンテンツだと思う。既に社会科で5年生以降、国土、経済との関係で産業の学習はしてきて、中学、高校の中で、もう既に系統的な扱いはされている。「海洋教育」について、教科横断的な資質・能力として特出しすることは、少し違和感を覚えた。もう一つは、「グローバル化が進む社会という観点から、領土や国土に関しての領海、EEZ など海洋の重要性や意義の理解に関する内容」ということ。これもやはりどちらかといえばコンテンツ。これに対応するようなものは、既に「審議のまとめ」の40ページ、現代的な諸課題に対して求められる資質・能力と教育課程の箇所が出ており、「グローバル化の中で多様性を尊重するとともに」、「現在まで受け継がれてきた我が国固有の領土や歴史について理解し」ということが入っていて、さらに、「伝統や文化を尊重しつつ、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦する」と記載されている。単なるグローバル化が進む社会ということではなくて、グローバル化が、多様性を尊重する、多様な他者と協働しながら目標に向かって挑戦することとの関連で、我が国固有の領土や歴史について理解することになっていて、こちらの方がよほどダイナミックで、資質・能力的な位置付けになっている。パブリック・コメントの概要の「海洋教育」に盛られている項目は、少し限定的なことで、むしろコンテンツの理解に関わるようなことであって、教科横断的な資質・能力という点に盛ることに、違和感がある。また、答申に載せると、告示文にも影響を与えると思うが、「海洋教育」という言葉がそもそも、これまでの教育界ではそうなじみのある言葉ではない。主権者教育や、グローバル化への対応という言葉の中に、日本は海洋国家だという重要な認識を落としてもいいと思うが、

「海洋教育」を、それらとは別な概念として特出しして盛ってしまうと、かえってカリキュラムの構造や学力論の構造が崩れるような気がしている。うまく軟着陸させていただければと思う。

- 関係団体からの意見聴取の状況を受けて、「カリキュラム・マネジメント」に関して、色々な解釈の仕方があるように思う。短絡的に、校長のマネジメントというところに行き着いたりもしているし、そうではないという見方もある。新しい教育課程においては、カリキュラム・マネジメントは非常に重要なところなので、もう少し丁寧な解説が必要ではないかと思った。
- 関係団体からの意見聴取の中で、部活動を挙げられている。部活動は、文化系、スポーツ系に分かれるかと思うが、現場では教員、子供の負担がかなりあるという反面、教育的意義が非常に高く、子供の発育、発達を考えたときに、子供の成長を支えるという点では、教育課程とは切り離すことが難しいのではないかと考えている。海外を見ると、一つのスポーツというよりは、シーズンスポーツを取り入れているところもあったり、外部の指導者を取り入れたりもしている。保護者、家庭も関わる可能性もあるので、部活動が中心になって、地域、家庭をうまく結び付けることができるのではないかと思う。
- 今回の理念をどう周知していくかということが大事だと思う。先生方にどう理解をさせていくのかということと、保護者、一般の方々にどう理解してもらおうかということ。一般の方にも、変わるらしいということはある程度分かっていたが、どう変わるのかということについては、なかなかまだまだ分かってもらえていない。校種を超えてしっかり理解してもらえるように、周知についてはもっと充実させていく必要がある。
- ICTについては環境整備はもちろんのこと、関連するルールについても重要。せっかく機械が入ったのに十分使えないということも起こりかねないので、この点にも留意していただきたい。
- 審議のまとめの40ページ（現代的な諸課題に対応して求められる資質・能力と教育課程）の部分について、もう少し具体的なものも含めて少し膨らませて書いておくのはどうか。
- 全般的に見ると、白丸で書いて、その後、ポツで書いている部分、あるいはマル1、マル2、マル3で続いている部分、あるいは、ア、イ、ウ、エ、オで続いている部分、その他、片括弧のローマ数字の1、2、3で続いている部分といろいろあるが、これらの違いが整理できればよいと思った。